

はしがき

著者	益岡 隆志
雑誌名	神戸市外国語大学外国学研究
巻	61
ページ	3-3
発行年	2005-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1085/00000654/



は し が き

日本語研究と言語研究を架橋するものの一つに日本語をベースとする対照研究がある。その研究の一環として本研究班は、日本語と諸言語の対照研究に関する基礎的研究をテーマとして研究を行った。

本研究班の具体的な目標は、日本語文法の研究文献の整理とそれに基づく研究動向、及び、文法に関する日本語と朝鮮語（韓国語）、中国語、ロシア語、スペイン語との対照研究の動向、の2つの課題に取り組むことであった。前者については、1993年から2002年までの10年間の研究文献の整理に力を注いだ。また後者については、日本語と朝鮮語（韓国語）、中国語、ロシア語、スペイン語との対照に関する海外での研究と日本国内での研究の動向を調べた。

本報告書は、これらの成果をまとめたものであり、第1部「日本語文法研究文献」と第2部「対照研究の動向」で構成される。第1部は紙幅の関係で、年度については上記10年間の研究文献調査のうち1996年、1997年、1999年、2001年、2002年の5年分に、対象領域については文法論全般、語論、文論、談話・テキスト論のうちの文論に、それぞれ限定して掲載することにした。今回まとめた研究文献全体の報告についてはホームページでの公開を考えている。なお、今回の研究文献調査は、主に国立国語研究所編『国語年鑑』の文献情報と国立国会図書館ホームページの蔵書検索・雑誌記事検索による情報をもとにまとめたこととお断りしておきたい。

第2部についても紙幅の関係で、文献リスト全体を掲載することは断念し、研究動向を中心とした報告文を作成した。詳しい文献リストについては第1部のものと同様に、ホームページでの公開を検討したいと考えている。

本報告書のために文書を作成してくださった方々（第1部：建石始（1996年）、眞野美穂（1997年）、米澤優（1999年）、南津佳広（2001年）、吉成祐子（2002年）、第2部：崔眞姫、有田可奈子、青木則子、和佐敦子）に謝意を表したい。

2005年1月

研究班代表 益 岡 隆 志